



70th Anniversary Logo

公立大学法人

# 北九州市立大学

北九州市立大学は、昭和21年、戦後社会の復興と来たるべき国際社会への対応から旧小倉市により小倉外事専門学校として創立されました。同25年、北九州外国語大学に昇格し、その3年後には、名称を旧小倉市立「北九州大学」に改称、約半世紀の間に、北九州の地域にしっかりと根差しながら、文科系の総合大学として発展してきました。

その後、平成13年には北九州市が進める北九州学術研究都市の中核機関として国際環境工学部を開設し、大学名を「北九州市立大学」に改称、平成17年には地方独立行政法人に移行し、「公立大学法人北九州市立大学」となりました。現在では、5学部1学群と大学院4研究

科を擁する九州最大の公立の総合大学へと発展、平成28年の創立70周年を機に、さらに将来を見据え「地域」「環境」「世界(地球)」という3つをキーワードに掲げ、自らの力で時代のニーズに応えていくよう取り組んでいます。

開学以来の歴史と伝統を継承するとともに、「豊かな未来に向けた開拓精神にあふれる人材の育成」及び「地域に立脚した高度で国際的な学術研究拠点の形成」に努め、地域の産業、文化及び社会の発展に寄与することを目指す北九州市立大学。新たな未来へ向かうアクティブな姿を紹介します。



(上)北方キャンパス(福岡県北九州市小倉南区北方4-2-1)  
(右)ひびきのキャンパス(福岡県北九州市若松区ひびきの1-1)

[www.kitakyu-u.ac.jp/](http://www.kitakyu-u.ac.jp/)



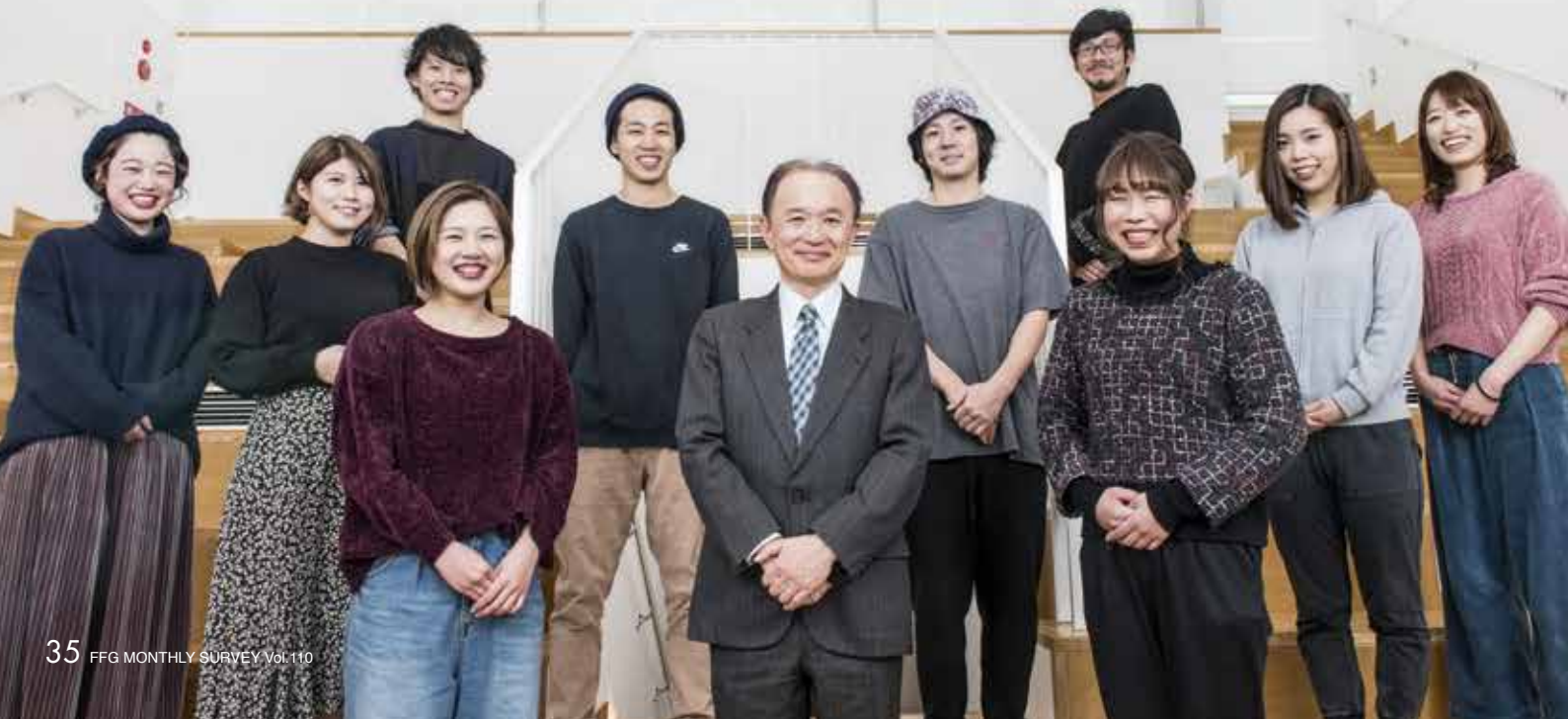
# 学生と共に、地域と共に、 時代の先を読む

大学の主役は学生です。そして、その学生を育て、社会で活躍できる人材として送り出すのが大学の使命です。また、地域の知の拠点として、地域の活動を支え、地域の課題を共に解決し、地域の活性化に貢献する役割も大学は担っています。その活動の主役も学生です。

学生は、地域を通して多くを学びます。地域との関わりを持つことで、今、何が課題となっているのか、将来は何が求められるのかを学生には感じとってほしいと思っています。ただ、目を向けるのは「地域」だけではなく、持続可能な社会の実現に向けて「環境」に対しても、グローバル化した時代に生きるために「世界」にも関心を持つてほしいと思っています。

時代は常に変化し、社会が必要とする人材も地域の課題も変化していきます。そのため、時代の変化に対応した教育が求められます。本学では、2019年度に、新しいカリキュラムを全学でスタートさせます。さらに、2046年の100周年に向けて、「地域」、「環境」、「世界（地球）」をキーワードとしたコンセプトを掲げ、学生と共に、地域と共に、発展していく所存です。

公立大学法人 北九州市立大学  
学長 松尾 太加志



公立大学法人 北九州市立大学 理事長

# 津田 純嗣

Junji Tsuda

2017年4月1日に理事長に就任。第3期中期計画(2017年度～2022年度)をスタートさせた。これまで企業の経営者として培ってきた経験を活かし、本学の公立大学としてのプレゼンスを確立すべく手腕を発揮している。

(現:株式会社安川電機 代表取締役会長)



日本環境設計株式会社 取締役会長

# 岩元 美智彦

Michihiko Iwamoto

1987年3月、北九州市立大学経済学部卒業。2007年1月、日本環境設計を設立。資源が循環する社会づくりを目指し、リサイクルの技術開発だけではなく、メーカーや小売店など多業種の企業とともにリサイクルの統一化に取り組む。2015年アショカ・フェローに選出。



## 対談

### 地域・環境・世界(地球)の未来に 貢献する人材を育てるために

北九州市立大学は、第3期中期計画のスタート(平成29年4月～)を機に、より質の高い教育・研究や大学の個性化に向けた取り組みを行っています。そこで今回は、津田純嗣理事長と、同大学のOBで、日本環境設計株式会社の岩元美智彦取締役会長が、大学の将来ビジョンコンセプトである「地域」「環境」「世界(地球)」という3つのキーワードを基に、地域や社会に貢献できる人材を育成するために地元公立大学ができることについて語り合いました。

【司会】公立大学法人 北九州市立大学 副学長 柳井雅人

### わくわく感が、「人づくり」 「社会づくり」のパワーになる

**柳井** 本学は平成29年度に第3期中期計画をスタートしました。その基本方針として「地域」「環境」「世界(地球)」の3つの個性化の推進による大学のプレゼンスの向上を掲げています。現在進めている大学づくりについて津田理事長はどのような感想をお持ちですか。

**津田** 本学の教職員は、大学が掲げた「地域」「環境」「世界(地球)」という将来ビジョンに対して深い思い入れを持ちながら大学づくりを進めており、私はその姿を高く評価しています。「閉鎖的な大学が多い」というのが私個人の認識でしたが、この大学では、掲げられた理想と教育・研究運営が一致する方向に持っていく努力がなされているので非常に頼もしく思います。

**柳井** 岩元会長は平成28年11月に行われた本学創立70周年記念式典・祝賀会にもご多忙なかご参加くださいました。久しぶりの母校にどのような印象を持たれましたか。

**岩元** 古い校舎と新しくできた本館に図書館。新旧が混ざりあう光景を見て、懐かしさと新鮮さ

を感じました。中庭で学生たちが語り合う昔から変わらない光景に嬉しくなりました。

**柳井** さて今日は「地域や社会に貢献できる人材を育成するために地元公立大学ができること」をテーマにお二方のお話を伺いたいと思います。それでは岩元会長、企業が求める人材像について、企業経営に携わる立場から率直な意見をお聞かせください。

**岩元** 私は与えられた課題をクリアしていくことが非常に大事だと考えています。諦めるのではなく目標に向かって突き進む。その経験の積み重ねが社会人になってから十分生かされると思います。また、学生のみなさんに言いたいのは「やりたいことは、やるべきだ」ということ。自分がわくわくするような仕事、楽しめる仕事をするための土台を今のうちから作ってほしいと思います。

**柳井** 岩元会長が過去に述べられた言葉に「多くの方がリサイクルの行動を起こすには、わくわく感が必要だ」というものがあります。また、安川電機が掲げる「2025年ビジョン」の中にも「新しい技術・領域・目標に向かい人々の心に『わくわく』を届ける」という項目があります。この「わくわく」という言葉は、これからの社会づくりや人材育成の

キーワードになるのではないかと感じています。

**岩元** 「わくわく感」はとても大事です。例えば企業や消費者の方に「リサイクルにはこんな新しい技術と仕組みがあるのでぜひ参加してください」と言うとき皆さん理解してください。しかしながら、リサイクル活動に参加するのは簡単ではありません。そこで思いついたのが映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー パート2」に登場した、ごみを燃料にして動くクルマ型のタイムマシン「デロリアン」です。「あのデロリアンを、みんなの古着をリサイクルして作った燃料で動かそう」という、心がわくわくするようなプロジェクトを立ち上げたところ、イオンモールやセブン&アイ・ホールディングスをはじめとする名だたる大手企業が協力が名乗りを上げてくれました。そして全国各地にデロリアンをキャラバンさせ「あなたの服をリサイクルして作った燃料で、このデロリアンが走りますよ」と呼び掛けると、消費者のみなさんは喜んで、古着を持ってきてくれました。そんなわくわく感が、「人づくり」「社会づくり」のパワーになるんですね。



対談の様子(左から北九州市立大学 津田理事長、日本環境設計(株) 岩元会長)

## 地域貢献と課題解決への 高い意識が求められる

**柳井** 津田理事長にお伺いします。学生たちにとつての次のステージである社会で求められる能力を養うために、特に地域社会貢献という観点から学生時代に培うべきものとはどのようなものでしょうか。

**津田** 今、実業の世界では「具体的研究成果の社会還元」「研究活動を通じた社会貢献」とい



日本環境設計(株) 岩元会長

う意味を表す「社会実装」という言葉があらゆる場面で登場しており、産業界の意識は「地域社会貢献」という方向にどんどん動いています。したがって、これからは地域貢献への意識が高く、社会の課題を解決しようという発想を持つ人材が求められます。製品を作る上では、実際の場面でテストし、そこから出てきた課題をしっかりと認識し、課題を解決するために、何を学んで何を研究すれば良いかということを明確にしながら前へ進めていくことが大事になってきます。これから社会に出る学生の皆さんにも、課題発見への高い意識や、課題を解決するために何を学ぶかという姿勢を身につけてほしいですね。

**柳井** 津田理事長がお勤めになっている安川電機は、グローバル企業として知られており、ご自身も長年米国に駐在するなど、豊富な海外経験がお有りです。海外を経験することの意義についてお聞かせください。

**津田** 世界中には異なる文化がたくさんあり、それぞれの国の人々が、「自分たちの文化が当たり前であり正しい」と思いながら日々を過ごしているのではないのでしょうか。これは私個人の意見ですが、私たち日本人は、異文化に出会った時、それを



北九州市立大学 津田理事長

「おかしい」と決め付けるのではなく、その文化の背景までしっかりと見つめ、異なる者同士をつなぐ能力に長けていると思います。そういう意味において、日本人の若者が留学や海外インターンシップに参加し、海外という舞台上で日本人ならではの「つなぐ役目」「調整能力」を発揮することは、課題解決能力の向上につながりますし、グローバル社会で活躍する上でも非常に良い経験になると思っています。

## 豊かな未来に向かって

### 「知の創造」に取り組む

**柳井** 岩元会長、これからの本学に期待することをお話してください。

**岩元** 私には「リサイクル事業を通じ、世界の地下資源の争奪紛争を無くしたい」という夢があります。現在の戦争やテロの多くは石油をはじめとした地下資源の争奪が原因であるとされていますが、それを終わらせるのはお金や武器ではなく、モノが再生することで地下資源に頼らなくても済む消費者参加型の循環型社会を作ることだと考えています。石油などの地下資源ではなく、循環型社会の上にモノやサービスがあるという世の中を作ることによって戦争やテロはなくなるはず。そういう意味で、北九州市立大学の環境分野における先進的研究・技術開発やグローバル人材の育成の取り組みには大いに期待をしています。北九州市立大学が世界中の人たちから評価を受けて、ここにまた人が集まり、優秀な人材が育ち、世界や地域の課題を解決するビジネスが生まれるという好循環が実現すれば素晴らしいですね。

**柳井** 最後に津田理事長、今後大学が目指すべ

き姿をお聞かせください。

**津田** 現在建設中のリニア中央新幹線が開業することによって東京・名古屋・大阪の3つの大都市が約1時間で結ばれる「スーパー・メガリージョン」が今、注目を集めています。しかし私は、北九州・福岡の2大都市圏を結ぶ「スーパー・リージョン」の方に大きな可能性を感じています。アジアに近く、国際線も充実し、豊かな自然と食文化があります。北九州市もかつての公害を克服し、世界の環境首都として次のステップに向かっていきます。この地域は、日本はもとより、世界に誇れる地域に成り得るのではないのでしょうか。北九州市立大学は、産業技術の蓄積、アジアとの交流の歴史、環境問題への取り組みなどの北九州地域の特性を活かし、社会貢献への意識が高い人材の育成、高度で国際的な学術拠点の形成、地域の文化、社会、産業の発展と魅力の創出、アジアをはじめとする世界の人類と社会への貢献を教職員、学生が一体となって目指していきます。地域と共に発展し、世界の持続可能な社会、豊かな未来に向かって「知の創造」に取り組んでいきます。

**柳井** 本日は貴重なお話をありがとうございました。



対談を終えて(左から北九州市立大学 津田理事長、日本環境設計(株) 岩元会長、北九州市立大学 柳井副学長)

70<sup>th</sup>  
Anniversary



## 北九州市立大学70周年記念事業

# 新図書館、環境技術研究所

北九州市立大学は、平成27年春から平成29年春までの2年間で創立70周年記念事業期間として、新施設の整備や記念イベントの開催など、さまざまな取り組みを行いました。

その目玉に位置づけられていたのが、平成28年4月、北方キャンパスにオープンした新図書館です。施設全般の設計を担当したのは、国際環境工学部建築デザイン学科・赤川貴雄教授。赤川ゼミの学生たちも設計に参加しました。コンセプトは「世界の環境首都・北九州市にふさわしい図書館」。環境に配慮し、屋上には太陽光パネルを設置して館内の使用電力の一部をまかなうほか、自然採光・換気、日射遮蔽ルーバーなどを取り入れています。蔵書収容能力は約72万冊。一般向けの図書や新聞、雑誌から専門書まで幅広く取り揃え、利用者の学びのニーズにんでいます。図書館機能に加え、研究・教育スペースもさらに充実。



(左)ラーニングコモンズ／(右)ラーニングシアター／(下)北方キャンパスにオープンした新図書館



アクティブラーニングが可能な空間を提供しています。例えば、ゼミ活動や様々な人数でのディスカッションなどに利用できる「ラーニングcommons」のほか、大規模なプレゼンテーションやレクチャーを行える劇場型の学習空間「ラーニングシアター」を完備。無線LAN設備も導入し、新しい学びのスタイルをサポートしています。

また、ひびきのキャンパスにおいても新たな施設が登場。次世代産業の創出や既存産業の高度化のための研究開発を戦略的・二元的に推進する、環境技術研究所の研究開発活動の拠点となる新研究施設が平成29年4月にオープンしました。新施設は、環境技術研究所の英語名 Institute of Environmental Science and Technology の頭文字を使って、IEST Lab. (イースト・ラボ) の愛称が付けられました。同施設では、これまでの国際環境工学部の研究成果を集結し、DDS(がん細胞などの特定細胞に効率よく薬剤を伝送するシステム)の研究をはじめとしたバイオテクノロジーと情報システムを融合した先制医療工学に挑んでいます。政令指定都市で最も高齢化が進む北九州の地から、健康寿命を10年延ばす統合型テクノロジーの開発を推進します。



(左)研究室／(中)実験室／(右)環境技術研究所IEST Lab,ロゴ／(下)ひびきのキャンパスの南側にオープンした環境技術研究所IEST Lab.







# 北九州市立大学発ブランド紹介

## 国内外で販売中の石けん系 泡消火剤「ミラクルフォーム」

地元企業「シャボン玉石けん株式会社」が販売し、本学国際環境工学部の上江洲一也教授の研究チームが開発に関わった石けん系消火剤が、国内外で販売されています。

石けん系消火剤は、泡で対象物の表面を覆って空気を遮断し、水の浸透性を高めることで、効率よく消火できます。水での消火に比べて使用する水が抑えられ、環境にも配慮したものになっています。この消火剤は北九州市をはじめ、国内で採用する自治体が着実に増えています。



## 竹粉を使った 「合馬のファイバーらすく」

たけのこで有名な北九州市合馬地区には、良質な土壌に竹林が広がっていますが、近年、高齢化による手入れ不足から放置竹林が問題となっています。その対策として、竹に含まれる豊富な食物繊維に着目した国際環境工学部の森田洋教授は、学生らとともに竹の食用化について研究を重ね、平成27年に、クラウン製パンと共同開発した「合馬のファイバーらすく」を完成させ、商品化しました。整腸作用や便秘解消にも期待できそうです。



## キャンパス内で養蜂から 手がけた蜂蜜「北九州和蜂蜜」

「放課後みつばち倶楽部(代表：竹川大介 文学部教授)」が中心となり、北方キャンパス内において地域の自然環境の生物指標としてニホンミツバチを飼育しています。養蜂用に品種改良されたセイヨウミツバチの蜂蜜に対し、在来種のニホンミツバチが集める和蜜は幻の蜂蜜ともよばれ希少価値が高いものです。冬には、北九大と北九州周辺で収穫されたニホンミツバチの蜂蜜を「北九州和蜂蜜」として販売も行っています。



## 産学官連携によるオール北九州産の芋焼酎「平尾台」

平成26年11月から始まった「産学官域連携による焼酎プロジェクト」として、北九州市農林課・株式会社JA北九絆ファーム」と、本学地域創生学群が八幡東区猪倉地区で行っている「猪倉農業関連プロジェクト」が連携して取り組んだ、産・官・学・地域の絆の賜物が、今回の芋焼酎「平尾台」(「はたの里」(地域限定販売)です。



市内の耕作放棄地を利用して、原料となるサツマイモ「コガネセンガン」の作付け・栽培から収穫に至るまで、猪倉地域の方々と学生が一緒になって行い、地元酒造会社の「無法松酒造有限公司」での仕込み作業にも参加して作り上げたこの芋焼酎は、ラベルデザインも同

プロジェクトの学生が学内コンペを経て決定した、想いの詰まった製品となりました。毎年約1,500本ほど製造し、春頃から無法松酒造有限公司のほか、市内の百貨店などで販売されています。

## 小倉北区旦過市場を拠点にフィールドワークを実践する「大學生堂」

全国でもまれにみる、多様な市場文化を持った「市場都市」である北九州市で、小倉北区にある旦過市場の空き店舗を利用し、公開講座や民族音楽ライブの実施、各地のほんとうに「よいもの」を取り寄せた物品販売など、ありとあらゆる可能性を実現させていくフィールドワークが体験できる場所、「大學生堂」。

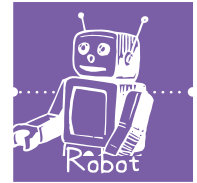
国内のみならず海外からも注目を浴び、大學生堂の名物ともいえる「大學生丼」を組み込んだパッケージジッパーもあるほど、北九州の観光資源の一つにもなっています。市場での商店主らとのつながり、市場や大學生堂を訪れる人々との関わり、そこから無限に広がる



ネットワークを通して、地域から世界に向けて発信できるメディアとしての役割も担っています。

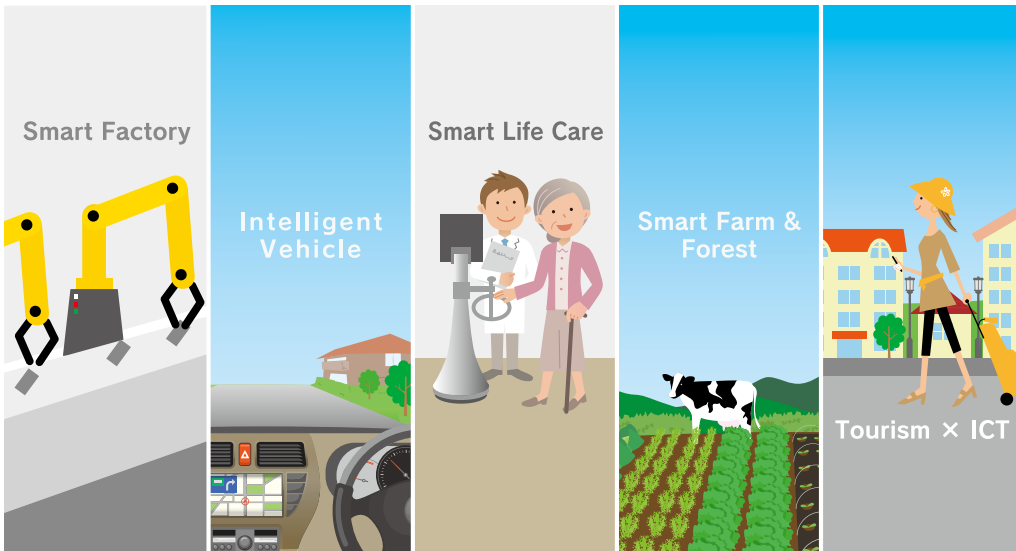
自ら考え行動に移し、それに伴う責任もしっかりと自分で引き受けるという力を身に付けることができる、真の意味での社会人が育っていく、大学を飛び出したもう一つのフィールドとして、今日も旦過市場でいろんな活動を行っています。

そしてこれからも、旦過市場、北九州市立大学の教員・学生によるユニークな共同事業として、大學生堂や学生たちのアイデアを吹き込むことで、新しい街づくりを実践する文化拠点としての魅力を上向きさせていきます。人々の笑顔があふれる「大學生堂」にご期待ください。



〈文部科学省補助事業〉

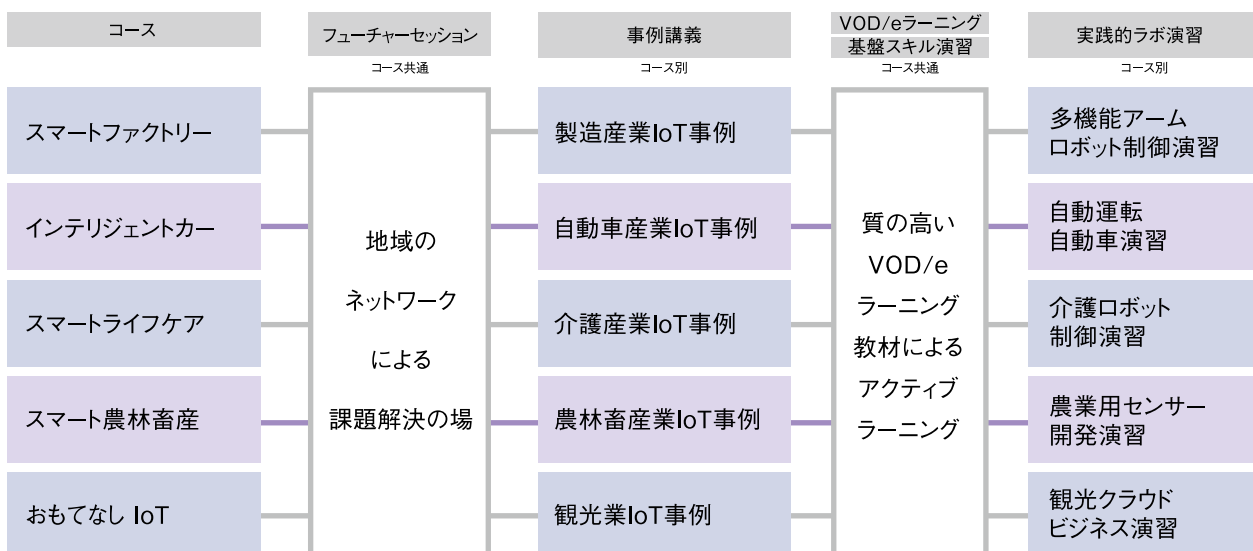
# 成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成



文部科学省が平成29年に公募した「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」の社会人向けプログラム(enPiT-Pro)に、北九州市立大学を代表校とした九州・中国地域の5大学が連携するプログラムが採択され、平成30年度より北九州市立大学院国際環境工学研究科の専門教育を社会人に向けたプログラムとして新たに始動します。

このプログラムでは、スマートファクトリーコース(製造産業)、インテリジェントカーコース(自動車産業)、スマートライフケアコース(介護産業)、スマート農林畜産コース(農林畜産業)、おもてなしIoTコース(観光業)の5つのスマート産業コース群を用意。質の高いVOD/eラーニング教材によるアクティブラーニングの場を提供します。すでに社会で働く多様な人が、人工知能とロボット技術などの新しい技術革新を学ぶための実践的な教育プログラムにご期待ください。

〈実施機関／北九州市立大学(代表校)、九州工業大学、熊本大学、宮崎大学、広島市立大学〉





〈文部科学省補助事業〉

COC+取り組み紹介

学生の地元就職・地元定着に向けた各種取り組み

平成27年度、本学が代表校となり申請した

『北九州・下関まなびとびあ』を核とした地方創生モデルの構築」が、文部科学省補助事業「地(知)

の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に福岡県下で唯一、事業採択されました。北九州

市と下関市からなる関門地域を対象に、13の大学・高専、3つの自治体、3つの経済団体により、

「北九州・下関まなびとびあ」を組織し、本地域の学生の域内就職や域内定着を推進しています。主

な取り組みとしてCOC+事業に関する調査研究や各種プログラムを推進する組織として、平成27年

11月、本学に地域戦略研究所を設立。さらに学生自らが本地域の魅力を知り、キャリア形成について

考えることを目的に、北九州・下関地域の文化、歴史、経済、産業等に関する科目を設けたり、会場大

手・中堅企業の関係者の講話から、地域の企業・産業について幅広く学べる授業を大学コンソーシアム関

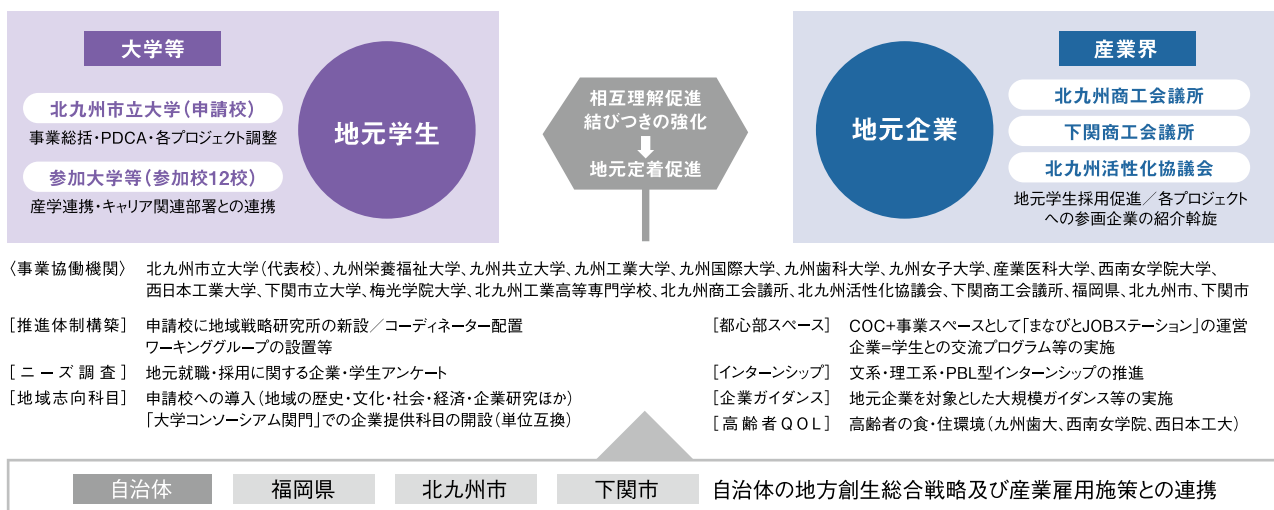
門に開講したりするなど、地域や地域産業への理解と関心を促進する取り組みも進めています。ま



(上)北九州・下関地域業界MAPと学生／(下)会社合同説明会

た、経済団体と連携してインターンシップや会社合同説明会なども実施しています。平成29年と平成30年には北九州市立大学地域戦略研究所が中心となって本学学生と協働し、北九州・下関地域の企業情報を網羅した「学生による学生のための北九州・下関地域業界MAP」を制作しました。

概念図



# 活躍するOB・OG



外国語学部 国際関係学科  
2006年3月卒業  
独立行政法人  
国際協力機構(JICA)  
**土居 健市**さん

日本政府の政府開発援助(ODA)事業の実施組織・JICAで、私は、アジア・アフリカ・中東地域での技術協力やインフラ開発のための資金協力等、幅広い分野の仕事に携わってきました。また、途上国ビジネスや青年海外協力隊の活動等、「日本の顔が見える協力」の実践のため、企業・団体や学校等、日本国内の方々とも協力してきました。

北九州市は、日本を代表する企業も多く、自治体・市民活動も活発な都市で、JICAも九州の拠点を北九州市内に置いています。このような国際協力の学びのリリースに溢れた都市にある「地域密着型」の大学である北九大在学時代に、私は、キャンパス内外で貴重な学びや出会いを得てきました。また、北九大は、先生と学生との距離も近く、学問から進路まで、丁寧に指導いただきました。北九大で学んだ国際関係学の視座、そして、国際コミュニケーションや地域協力の実践の経験は、国際協力の仕事における重要な基礎となっています。

私は今、半導体分野の新規製品開発を行っています。この分野は海外のお客様が多く、お客様の工場の生産装置を使って、私たちの製品を評価する場所に立ち会い、その場で技術的な議論を行うために海外へ赴くことも多々あります。製品開発はお客様に近い位置にあるため、お客様をはじめ、製造、営業、海外の現地の営業など様々な立場の人と関わることが多く、幅広く意見を聞くことができるため、広い視野を持つことができ、忙しくも充実した毎日を送っています。

「グローバルな環境で働きたい」と思ったきっかけは、大学での3年間の研究室生活でした。

研究室では、充実した実験環境、教授の厳しくも熱いご指導に加え、国内外問わず積極的に学会や学外の研究機関と関わらせて頂いたことで、国内だけでなく海外でも通用する仕事がしたいと思うようになったのを覚えています。

いつか自分の作った製品を世界中の人に使うてもらえることを目標に、日々努力し続けたいと思います。



国際環境工学研究科  
環境システム専攻  
2012年3月卒業  
日東電工株式会社  
**飯野 智絵**さん



経済学部 経済学科  
2007年3月卒業  
公認会計士  
**竹内 俊文**さん

私は大学卒業後、国や地方自治体の抱える課題に対して取り組み、課題の解決を支援していくことで社会に貢献していきたいと考え、一橋大学大学院に進学して公共政策を専攻しました。大学院卒業後は、シンクタンクにおいて研究員として公共機関等を対象とした調査・研究業務等に従事し、その後、新日本有限責任監査法人において公認会計士として、公的機関等の財務諸表監査やアドバイザリー業務に従事しました。

現在は、省庁において、公共インフラの運営委託制度の企画・立案・分析等に従事しています。大学卒業後、このような様々な経験を積むことができていたのは、大学時代のゼミの先生に背中を押していただいたお陰だと思っています。北九州市立大学は、先生と学生との距離が近く、非常にきめ細かい指導を受けることができます。

今後も大学で学び得たものを糧にして業務に邁進していくとともに、いつかは業務を通じて得た経験を活かして、次世代の育成にも携わりたいと思っています。



# 新生・英米学科誕生

2019年4月、北九州市立大学外国語学部  
英米学科が生まれ変わります。

世界的視野で考え、国際社会で実践的に活躍できる人材育成機能を強化するため、2012年度から取り組んでいた文部科学省補助事業「グローバル人材育成推進事業」の成果を活かした教育プログラムへと進化。同時に、定員を111名から135名へと増員します。

具体的には、「1・2年次における到達度別クラス編成での英語集中プログラムの実施」「コアプログラムを選べる新制度の導入」「留学 特定課題演習の必修化」「専門の約7割を英語で授業」など抜本的にカリキュラムを改編。中でも改編の柱となる「コアプログラム制度」は、ビジネスなど3つの専門分野から自分のコアプログラムを卒業後の進路を見据えて選択する仕組みです。

“英語を学ぶから”英語で専門分野を学ぶへの転換によって身につける高い実践力。時代のニーズに応え、社会で即戦力となる人材育成に全力で取り組みます。

## 英米学科の特色と入学から卒業までの流れ

